北海道大学病院
地域医療連携福祉センター
NEWS LETTER
No. 24

TOP NEWS

平成29年度北海道大学病院 地域連携懇話会を開催

１１月１０日（金）午後４時からＴＫＰ札幌駅カンファレンスセンターにおいて、平成２９年度北海道大学病院地域連携懇話会を開催しました。本懇話会では、療養型施設、急性期病院、在宅医療など、地域包括ケアにおいてそれぞれの役割を担う施設の医療従事者や、地域医療構想から見た慢性期医療について知見のある地域医療計画の研究者にご登壇いただきました。

第１部は「急性期病院と他の医療機能病棟との連携を考える」と題し、①回復期リハビリテーション病棟の立場からとして札幌渓仁会リハビリテーション病院　小川　太郎　医師、②地域包括ケア病棟の立場からとして札幌ひばりが丘病院　髙橋　大賀　病院長、③慢性期病棟の立場からとして北海道内科リウマチ科病院　西村　晋弥　医療福祉課長からそれぞれ講演をいただきました。引き続き第２部として、東北大学医学系研究科公共健康医学講座　藤森　研司 教授から、「域医療構想から見た慢性期～在宅医療について」と題し基調講演をいただきました。

講演終了後は第３部として、寳金　清博　病院長から地域包括ケアにおける大学病院の役割等について話題提供があった後、各演者、渥美　達也　地域医療連携福祉センター長、及び樋田　泰浩　同副センター長を加えたパネルディスカッションを行い、地域包括ケアや医療人材育成のあり方等について議論が展開されました。

当日は１０３名（学外７０名・学内３３名）の参加者があり、講演後の質疑応答、そしてその後の懇親会まで、盛況のうちに本懇話会を終了しました。

寳金 病院長（左上）、渥美 地域医療連携福祉センター長（右上）
札幌渓仁会リハビリテーション病院　小川 医師（左中）
札幌ひばりが丘病院　髙橋 病院長（右中）
北海道内科リウマチ科病院　西村 医療福祉課長（左下）
東北大学医学系研究科公共健康医学講座　藤森 教授（右下）

血液内科

診療のご紹介

外来医長　近藤　健

血液疾患は内科領域の中でも比較的頻度の少ない疾患が多いために、総合病院でも血液内科の診療科を持たないことも多い領域です。このような事情もあり当科では全道より患者さんが受診されます。血液専門医が22名在籍しており、新来、再来共に月曜から金曜まで専門診療を行っています。

血液内科では、特発性血小板減少性紫斑病や血友病のような良性疾患から白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫のような悪性疾患まで血液疾患全般を診療しています。当院は造血幹細胞移植推進拠点病院として北海道地区の造血幹細胞移植医療の中心的役割を担っています。また北海道エイズブロック拠点病院としてHIV診療も行っています。

血球減少症および増多症

貧血をはじめとした血球減少症は良く経験されますが、鉄欠乏性貧血以外の貧血や多系統にわたる血球減少症では再生不良性貧血、骨髄異形成症候群などの血液疾患が存在していることがあります。逆に血球が持続的に増加している場合、慢性白血病や真性多血症が存在する場合もあります。これらの病態は早期に診断することで、疾患による合併症や病状進行を生じる前に適切な治療が開始出来ます。

血小板・凝固異常症、血栓症

出血傾向がある場合には、血小板減少症や凝固異常症が存在する場合があります。先天性血友病は小児期に診断される事が多いですが、成人になって発症する後天性血友病は、あまり認知されておらず専門施設での精査が必要です。また若年にもかかわらず繰り返す血栓症の場合には、凝固阻止因子欠乏症の有無の確認が必要です。

血液悪性疾患の化学療法

造血器悪性疾患は頻度は多くありませんが、適切に治療する事で治癒や長期生存が期待出来ることが特長です。近年では抗体医薬やキナーゼ阻害剤といった分子標的治療薬が導入されており、高度の専門性が要求されます。また、ドラッグ・ラグを解消すべく新薬の導入にも積極的に取り組んでおり、国内／国際的な臨床治験にも数多く参加しています。

造血幹細胞移植

造血幹細胞移植は白血病をはじめとした難治性血液疾患の治癒を目指せる有効な治療法で、当院でも新たな移植法の開発を進めています。当科には全道から患者さんが集まっていますが、移植を受けた患者さんは移植後も長期にわたるフォローが必要です。当院は、造血幹細胞移植推進拠点病院として「造血幹細胞移植連携支援センター」を設置しており、移植医療に携わる人材の育成、道内の血液診療施設との連携、さらには移植医療の効率化に向けた活動を行っております。結果として、北海道のどこに住んでいても地元近くの医療施設で、十分な移植後フォローアップができる体制を提供しています。

HIV感染症／AIDS診療

当院では血液内科が中心となって HIV 感染症の診療にあたっています。血液内科には、日本エイズ学会の認定医・指導医も在籍しており、看護師、ソーシャルワーカー、カウンセラーなどのHIV専任スタッフとともに、チーム医療体制でHIV 診療を行っています。HIV 感染患者さんは増加傾向にあり、身近な感染症になってきています。また、当院では「HIV 診療支援センター」を設置しており、道内の医療施設や福祉施設などに出向く出張研修など、HIV 感染症に関する社会的な活動も行っております。

血液内科 初診体制（H29.10 現在）

専門分野	診療日	事前予約	紹介状
血　液 HIV 感染症	月～金	必要	必要

血液内科 初診・再診担当医師（H29.10 現在）

月	火	水	木	金
白鳥聡一 / 小野澤真弘 / 近藤健	豊嶋 崇徳 / 橋野 聡 / 小野澤 真弘 / 家子 正裕 / 中川 雅夫 / 杉田 純一	近藤 健 / 橋本 大吾 / 遠藤 知之 / 後藤 秀樹	後藤 秀樹 / 岡田 耕平 / 加畑 馨	遠藤 知之 / 白鳥 聡一 / 小杉 瑞葉 / 杉田 純一
移植後長期フォロー外来：担当医師				

※受診日の担当医師はあらかじめ外来にご確認ください。　※別の医師が診察を行う場合があります。あらかじめご了承ください。

臨床試験のご紹介と患者紹介のお願い

外来医長　鬼丸 力也

放射線治療科では、X線による外照射、Remote After Loading System (RALS) を用いた腔内照射、陽子線治療等を行っております。特に力を入れているのが、高精度放射線治療と陽子線治療です。これらの高精度X線治療や陽子線治療では、医師・技師・看護師の他に、医学物理士や線量測定士が必須で活躍しています。それらの治療法の進歩・発展のために臨床試験も行っております。陽子線治療については、H29 年 5 月発行号ですでに紹介させていただきましたが、その後も順調に稼働しております。今回は、当院の外来診療等の特徴として、最新の放射線治療に関する臨床試験について紹介させていただきます。以下の臨床試験につきまして、該当しそうな患者さんがいらっしゃいましたら、ご来院あるいはご紹介を頂けますと幸いです。もちろん、臨床試験とは関係なく、放射線治療が必要なあらゆる患者さんのご来院をお待ちしておりますので、お役に立てることがあれば、ぜひよろしくお願いいたします。

臨床病期 IA 期非小細胞肺癌もしくは臨床的に原発性肺癌と診断された 3cm 以下の孤立性肺腫瘍（手術不能例・手術拒否例）に対する体幹部定位放射線治療のランダム化比較試験（JCOG1408, J-SBRT trial）

日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）に参加している多施設で行っている多施設共同臨床試験です。臨床病期 IA 期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療において、日本での臨床試験で有効性が示され広く用いられている線量と、それより高い線量との比較試験です。適格条件の詳細については、以下の UMIN-CTR 臨床試験登録情報に掲載されております。
https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr_view.cgi?recptno=R000023701&language=J

T1-2N0-1M0 中咽頭癌に対する強度変調放射線治療（IMRT）の多施設共同非ランダム化検証的試験（JCOG1208、IMRT for Early OPC）

こちらも日本臨床腫瘍研究グループでの多施設共同臨床試験です。早期の中咽頭癌に対して強度変調放射線治療を用いて治療し、合併症を減らすことが出来るか研究しています。詳細は以下の UMIN-CTR 臨床試験登録情報に掲載されております。
https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr_view.cgi?recptno=R000016433&type=summary&language=J

切除不能、局所療法不適の肝細胞癌に対する陽子線治療の多施設共同臨床試験

根治切除不可能かつ穿刺局所療法不適の肝細胞癌患者に対する陽子線治療の有効性と安全性を評価する多施設共同臨床試験です。こちらも以下の UMIN-CTR 臨床試験登録情報に詳細が掲載されております。
https://upload.umin.ac.jp/cgi-open-bin/ctr/ctr_view.cgi?recptno=R000023097

その他にも複数の臨床試験に関わっておりますので、気軽にお問い合わせ頂ければと思います。

新動体追跡システム
医学物理士の石川正純教授、宮本直樹助教らの努力で北海道大学病院に２０１３年に設置された SyncTraX®

放射線治療科 初診体制（H29.10 現在）

専門分野	診療日	事前予約	紹介状
放射線治療	月・火・木	医療機関から ご予約ください	

放射線治療科 再診担当医師（H29.10 現在）

月	火	水	木	金
乳房・婦人科：木下 留美子 / 西川 由記子 胸腹部：加藤 徳雄 / 井上 哲也 泌尿器：橋本 孝之 / 西岡 健太郎 陽子線：白土 博樹 / 清水 伸一 / 橋本 孝之	頭頸部：安田 耕一 / 湊川 英樹 / 出倉 康裕 泌尿器：清水 伸一 陽子線：白土 博樹 / 清水 伸一 / 橋本 孝之		中枢神経：鬼丸 力也 / 森 崇 胸腹部：加藤 徳雄 / 井上 哲也 / 打浪 雄介 陽子線：白土 博樹 / 清水 伸一 / 橋本 孝之	

※別の医師が診察を行う場合があります。あらかじめご了承ください。

臨床遺伝子診療部

臨床遺伝子診療部のご紹介

診療部長　矢部　一郎

遺伝子解析技術や医療の急速な発展に伴い、これまで原因不明だった疾患の原因遺伝子が次々と明らかになっています。また腫瘍領域を中心に、ゲノム情報に合わせた個別化治療が行われつつあります。

臨床遺伝子診療部は平成 13 年度の設立以来、各診療科から遺伝に携わる者を組織化し、遺伝診療を実施してきました。今年度は各診療科との兼任である臨床遺伝専門医 10 名と、非医師の臨床遺伝専門職である専任の認定遺伝カウンセラー 1 名に加えてほぼ全ての診療科に当診療部との仲介役を担う医師を配置し、チーム医療として横断的な遺伝診療を実施しています。

臨床遺伝子診療部の三本柱

遺伝カウンセリングの実施

遺伝性疾患はどの診療科でも出会う機会があり、臨床のあらゆる場面で遺伝学的検査が実施されています。遺伝子診断がつくことで将来の見通しがつく一方で、遺伝子の情報は①不変性②共有性という特徴をもつことから、人生の様々な場面で不安や悩みが出てくることがあります。私たちは、遺伝に関する不安や悩みを抱えている患者様やそのご家族の方に対し、“遺伝カウンセリング” を行っており、医療面と心理面の両側面からクライエントに関わります。

平成 25 年度に無侵襲的出生前遺伝学的検査（Non-Invasive Prenatal genetic Testing; NIPT）や、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）に関する社会的注目が集まったことにより、ここ数年で遺伝カウンセリング件数は飛躍的に増加しています。また平成28年度からは、がん遺伝子診断部と連携し、体細胞変異を対象とした網羅的がん遺伝子診断の結果、副次的に発見される遺伝性腫瘍にも対応しています。症例は月 1 回開催される診療部会議で報告され、診療部全体で情報を共有し、複数の立場から検討を行っています。

平成 28 年度の遺伝カウンセリング総数は 1287 件と、ひと月の平均実施数が 100 件を超える実績があります。遺伝に関する相談ごとがございましたら、まずは認定遺伝カウンセラーにご連絡ください。（内線：6025（神経内科外来）、PHS：82395）

ヒトゲノム研究の支援

当診療部は、各診療科で実施されるゲノム関連の自主臨床研究や医師主導治験を支援しています。特に近年はコンパニオン診断に基づく臨床研究／治験が増加しつつあり、例として平成 28 年度は、婦人科主導の “ニボルマブ再発卵巣癌治験” や、小児科主導の “未診断疾患プロジェクト（IRUD）” の中で、必要に応じ遺伝カウンセリングを担当しました。ゲノム関連の研究では、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針に則り、遺伝カウンセリングが必須であり、当診療部の関与が無いと研究自体が認められません。当診療部は、院内でゲノム情報を適切に扱い研究を進めていく上で重要な役割を担っています。

院内や社会に向けた啓発活動

遺伝診療の発展を目指すことと並行し、院内や社会に向けた啓発活動を行うことも当診療部の責務であると考えます。医学生や研修医のみならず、医療従事者を対象とした講演会や勉強会を実施し、北海道における遺伝診療のモデルとして最新かつ正確な情報を発信していく予定です。また遺伝は、①不変性②共有性といった特徴だけでなく、③多様性という特徴も持っています。ヒトの多様性について考える機会を作る等、遺伝リテラシー向上のための社会に向けた活動についても継続して実施する予定です。

臨床遺伝子診療部の窓口

TEL 011-706-6025（神経内科外来）/ FAX 011-706-7056

受診いただくための手続きの流れ

ご本人から直接ご連絡いただく場合	医療機関からご紹介いただく場合
患者様あるいはご家族の方等から直接ご予約可能です。現在医療機関を受診していない場合や、紹介状が無い場合でも対応可能です。臨床遺伝子診療部の窓口（TEL 011-706-6025：神経内科外来、FAX 011-706-7056）に直接ご連絡ください。	臨床遺伝子診療部の窓口（TEL 011-706-6025：神経内科外来、FAX 011-706-7056）に直接ご連絡ください。その後、担当者と調整のうえ、直接ご本人と日程調整を進めていくことになります。

※お手続きについて、詳しくは当診療部のウェブページをご覧ください（http://www.huhp.hokudai.ac.jp/hotnews/detail/00000200.html）。
※相談内容によって実施可能な日程が異なるため、お電話にてお問い合わせ下さい。
※遺伝カウンセリングは保険外診療となるため、全て自費診療となります。

高齢者歯科

高齢者歯科のご紹介

外来医長　小林　國彦

高齢者歯科は 2001 年にスタートした、歯科の中で最も新しい診療科です。当科には約 20 名の歯科医師が在籍しており、年間延べ 15,000 人以上の外来患者の診療にあたっています。当科の歯科医師は高齢者歯科、口腔外科、口腔内科、補綴歯科、摂食嚥下など多岐にわたる認定医・専門医・指導医から構成されており、その専門性を活かし、各歯科医師が協調して外来診療を行っています。外来では補綴治療を中心とした一般歯科、高齢者を対象とした口腔粘膜疾患、口腔乾燥症、舌痛症の治療など、幅広い診療を行っています。また、訪問歯科診療では対応が困難な有病在宅高齢者や外来歯科治療が困難な障害のある患者に対し、短期間の入院下や全身管理下での集中的な歯科治療も実施しています。

本稿では高齢者歯科の診療内容の一部についてご紹介します。

口腔ケア

当科は 2006 年に結成された NST の口腔ケアチームの一員として入院患者の往診を積極的に行い、とくに造血幹細胞移植患者には無菌室の往診を 10 年来、専門的に行っています。2016 年 4 月には口腔ケア連携センターが発足し、歯科の各診療科とも協力して全身麻酔手術前の感染源除去、誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア、化学療法や放射線療法における口腔ケアなどの専門的口腔ケアに関わっています。外来受診可能となった入院患者に対しては外来でフォローアップを行い、口腔内環境の維持・改善に努めています。また、他院で全身的な治療を行っている口腔ケアが必要な外来患者の受け入れも行っています。

ベッドサイドでの口腔ケア

造血幹細胞移植患者の口腔粘膜炎

歯科治療と栄養評価

口腔は栄養摂取のために重要な器官であり、歯科は経口摂取のための環境作りにきわめて重要な診療分野です。とくに要介護高齢者などでは口腔機能と栄養とに深い関連があることが明らかとなっています。当科では生体電気インピーダンス法を利用した InBody® により、歯科治療前後における体組成を測定することで栄養状態の評価を行っています。

InBody® による体組成測定

摂食嚥下リハビリテーションと補綴的アプローチ

当科は当院の摂食・嚥下専門外来に深く関わりを持ち、口腔がん術後、脳血管障害、神経筋疾患患者などに対し、摂食嚥下リハビリテーションと補綴的アプローチを融合した診療を行っています。舌圧測定などにより客観的に口腔機能を評価した後、口腔機能に器質的・機能的障害がある患者に対し、舌接触補助床、嚥下補助装置、顎義歯などの口腔内装置の作製、摂食嚥下障害がある患者に対する機能訓練・指導、食事指導などを行っています。当院口腔外科・口腔内科に入院・通院する患者だけではなく、耳鼻咽喉科やリハビリテーション科からの紹介や、他院・在宅・施設からの紹介患者などもおり、受診者は多岐にわたっています。

上顎顎欠損と上顎顎義歯

舌がん患者に対する嚥下補助装置

舌圧測定

高齢者歯科 初診体制（H29.10 現在）

専門分野	診療日	事前予約	紹介状
高齢者歯科	月～金	必要	無し可（別途 3,240 円かかります）

高齢者歯科 再診担当医師（H29.10 現在）

月	火	水	木	金
山崎 裕 / 小林 國彦 / 岡田 和隆 / 阿部 貴恵 / 中澤 誠多朗	山崎 裕 / 小林 國彦 / 岡田 和隆 / 阿部 貴恵 / 近藤 美弥子 / 中澤 誠多朗	山崎 裕 / 小林 國彦 / 阿部 貴恵 / 近藤 美弥子 / 中澤 誠多朗 / 濱田 浩美（摂食嚥下）	山崎 裕 / 岡田 和隆 / 阿部 貴恵 / 近藤 美弥子 / 中澤 誠多朗	山崎 裕 / 小林 國彦 / 岡田 和隆 / 近藤 美弥子

※別の医師が診察を行う場合があります。あらかじめご了承ください。

北海道大学病院　各ご連絡窓口のご案内

○ 初診患者さんの外来予約の受付 ○ セカンドオピニオン外来の予約受付 ○ PET/CT・RI 検査の申込受付 ※ご予約方法や FAX 番号など、各種ご予約に関する詳細は、当院ウェブサイトの「ホーム ＞ 医療関係者の方 ＞ 予約について」をご覧ください。	医事課初診予約係 電話：011-706-6037
○ 退院後の療養支援について ○ 在宅福祉サービス開始に伴うご相談について ○ 訪問看護・介護保険サービスに関する文書について	地域医療連携福祉センター 退院調整部門 電話：011-706-7943 FAX：011-706-7945
○ 公費負担医療・障害者手帳申請について ○ 生活保護に関するご連絡について ○ 主治医意見書（介護保険・障害福祉サービス）について	医療福祉相談室 （医療支援課医療福祉係） 電話：011-706-5646
○ 医療機能連携協定について ○ 患者情報共有ネットワークについて ○ 各医療機関への案内文発送	地域医療連携福祉センター 連携支援部門 （医療支援課地域医療連携係） 電話：011-706-5629
○ 特定の診療科に関するお問い合わせ ※各診療科の受診に関する詳細は、当院ウェブサイトの「ホーム ＞ 診療科・センター・部門 ＞ 診療科のご案内」ご覧ください。	各診療科外来 病院代表電話：011-716-1161
○ がんに関するご相談	がん相談支援センター 電話：011-706-7040

大腸がん市民公開講座を開催しました

北海道大学病院では、本院におけるがん診療連携拠点病院機能強化事業の一つとして、がん患者及びその家族の皆さん、またがん治療に興味のある市民の皆さんを対象に、本院が行っているがんに対する治療法を市民に紹介することを目的として、市民公開講座を毎年度数回開催しています。

平成２９年度の第１回がん市民公開講座は、認定NPO法人キャンサーネットジャパンが取り組むブルーリボンキャラバンとの共催で、「もっと知ってほしい大腸がんのこと」をテーマに、11月5日（日）、本学学術交流会館において開催しました。

講演では、恵佑会札幌病院の久須美 貴哉 副院長・外科主任部長、中川胃腸科の中川 宗一 院長、当院消化器外科Ⅰの本間 重紀 医師、当院腫瘍センターの小松 嘉人診療教授らにより、大腸がんとはどんな病気か、予防・診断・検査の話、外科的治療の話、薬物療法の話が語られ、その後、当院看護師から「がん相談支援センター」のご案内、ストーマとの付き合い方、また緩和ケアチーム医師から緩和ケアに関する情報提供がありました。

当日は３００名を超える方々にお越しいただき、協賛企業による体験ブースも含め、盛況のうちに幕を閉じました。

講演会場のようす

ホールの企業等ブース

腫瘍センター　患者サロンのご案内

北海道大学病院腫瘍センターの患者サロンでは、がん患者やそのご家族を対象に、カフェなど各種交流イベントを開催しています。
各イベントの詳しい情報は、北海道大学病院腫瘍センターのウェブサイト（http://cancer.huhp.hokudai.ac.jp/）でご確認ください。

がんサロン「なないろ」　毎月第３金曜日

概要　がん患者さんと家族のためのサロンです。

「わかばカフェ」　毎週金曜日

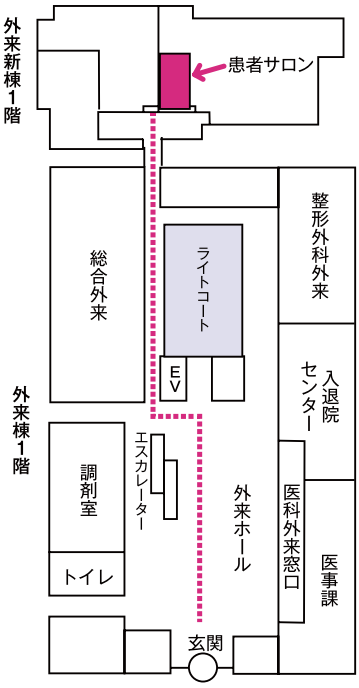
概要　子育て世代のがん患者さんのための患者サロンです。

「ことりカフェ」　不定期開催

概要　がんで闘病中の親を持つ子どもたちを対象とした交流イベントです。

「ゆるりサロン」　月１回（不定期）

概要　小児がん患者さんのご家族のためのサロンです。



INFORMATION

北海道大学病院 腫瘍センター 前立腺がん市民公開講座のご案内

本院におけるがん診療連携拠点病院機能強化事業の一つとして、がん患者及びその家族の皆さん、またがん治療に興味のある市民の皆さんを対象に、本院が行っている前立腺がんの治療について紹介することを目的として、市民公開講座を開催することとなりました。ご参加は無料、事前申込不要です。患者及びその家族の皆さんにぜひご周知ください。

日　時 平成 30 年 1 月 7 日（日）14:00 ～ 16:30

場　所 北海道大学 学術交流会館 2 階講堂（札幌市北区北８条西５丁目）

総合司会 北海道大学病院　泌尿器科　教授　**篠原　信雄**

開会挨拶 北海道大学病院 腫瘍センター診療教授　**小松　嘉人**

第１部

①前立腺がんの疫学と診断、検査

北海道大学病院　泌尿器科　医師　**松本　隆児**

②前立腺がんの監視療法

北海道大学病院　泌尿器科　医師　**丸山　覚**

③前立腺がんの手術療法（ダビンチ等）

北海道大学病院　泌尿器科　医師　**安部　崇重**

④前立腺がんの薬物療法

北海道大学病院　泌尿器科　医師　**大澤　崇宏**

⑤前立腺がんと緩和ケア

北海道大学病院 腫瘍センター・麻酔科　医師　**敦賀　健吉**

第２部 パネルディスカッション（会場参加型）

テーマ「前立腺がんについて知ろう！ ～治療から日々の生活、医療費の実際」

パネリスト：講演者、中野　政子（看護師）、我妻　喜久子（医療ソーシャルワーカー）

編集後記

今年の７月より地域医療連携福祉センターの退院調整部門のソーシャルワーカーとして勤務しております、五十嵐久恵と申します。逆紹介などの病診連携調整や、回復期病棟への転院を考えている入院患者さんの調整を、先輩方にご指導いただきながら対応しています。一つ一つ経験を重ね、皆さんに信頼を寄せてもらえるようなソーシャルワーカーになれるよう、頑張ります。

発行 平成29年12月
北海道大学病院
地域医療連携福祉センター
〒060-8648 札幌市北区北 14 条西 5 丁目
TEL：011-706-7943（直通）
FAX：011-706-7945（直通）
http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/